



さくらば節子市政報告

平成24年 第1号
特集：6月定例会

1. 6月定例議会：討論の特徴

6月定例議会は補正予算を討論するので比較的短い議会でしたが、公共の福利の視点、費用対効果の視点から十分検討され、活発な質疑の行われた委員会もありました。予算以外にも所管事務調査と言って、会期外でも継続して各委員会が取り組む内容があり、それらの報告を審議しました。

板倉区国川で起きた地滑りに関して、事前に危険信号が出ていたはずなのに市がなぜそれを拾えなかったのか。また厚生産業会館(仮称)の建設に関して、市長の諮問委員会が偏った意見を提出していると言う指摘があり、住民不在の検討委員会ではないのかと言う鋭い質疑応答がありました。大風で損害賠償が生じた事案では公共施設の安全点検を徹底することなどを確認し、暴力団排除条例の基礎案に対して細かい検討が加えられました。

また一般質問では市の第三セクター事業について多くの議員が質問し、持株会社経営への移行がスムーズに行われるように要望が出ました。

大飯原発再稼働のニュースを受けて、今後市長として原子力発電所の再稼働にはどのような姿勢を取るつもりか、放射能対策はどうするつもりかなど質問も多くありました。特に大湊区出身の市議は自分の家族に起こった事例から、市の放

射能対策の改善を強く訴えました。

このほか児童生徒通学路の安全確保に関する質問、新幹線を使った市の観光振興策や新駅の名前についてなど新幹線に関する質問が活発に出されました。介護保険料、ごみ処理に関する問題、地方自治の在り方まで多岐にわたる質疑応答が活発になされました。

今回議員がいなくなってしまった大島区や中郷区にある施設に関する質問を取り上げた議員もあり、市議会全体として「議員は地元だけを代表するのではなく、上越市全体の代表者である」と言う姿勢を明確に示せたことが良かったと思います。

当然ですが行政側の解答は「前向きに取り組んでいる」から「考慮しつつも現時点では状況を把握している」まで、どちらともつかない曖昧なものが多かったのですが、誰もあの場で良い返答をもらおうという考えがあったわけではありません。繰り返し提案し続ける事で少しずつ実現していけるよう、あきらめず努力するのみです。

全ての分野が課題を抱え早急な解決が望まれている今、全議員が持てる個性と実力を全てぶつけて上越市発展のために切磋琢磨して行くことを肝に銘じなければなりません。

2. 私の一般質問（6月15日）



私は今回新幹線を使った、市の産業振興、観光振興策について質問しました。詳しくは上越市議会中継録画 (<http://gikai.joetsu.tv/>) をご覧ください。次回の市議会だよりも大体の内容が出てきます。今私が一番心配することは、市の「新幹線が上越市にもたらすビジネスチャンスを活した取り組みをしよう!」という政策がいまだはっきりと市民の目に見えてこないこの現状です。27年春の開通までにはたして態勢を整えることができるのか、と仰うことです。

市長及び企画政策部長のお答に納得できなかったのは以下の点です。

①もし新駅周辺に大規模施設を建設しないのならば、春日山、直江津港、高田城跡などの地域の開発計画はあるのか、

何を目玉にするのか。

②新駅周辺へ投資する財源を探せないのか。

③はたして産業厚生会館(仮称)は新駅周辺開発に先立つ重要事項なのか。

長野側にある飯山市では長野新幹線の時からの悲願であった新幹線開通とあって、市民の期待と夢は大きく膨らんでいる模様です。旅館組合は宿泊客を対象に無料宿泊券の入った懸賞抽選会を開き、古民家を改築して移転移住者の誘致に力を入れています。他市との比較が良いことかどうかはわかりませんが、上越市は何を持ってこの時を迎えるのか、一般市民の目からもよく見えて、自分たちも参画してみたいプロジェクトになっているかどうかには勝敗がかかってくると思います。

上越市としては新駅周辺の開発ではなく、他地区(妙高、糸魚川、佐渡)と連携した上で、現在ある観光資源の魅力をよりアピールしていく方向で企画を立てているので、その進捗状況を見ながらですが、今後もしっかり振興策を進めていけるようにこちら側からも意見、提案して行きます。

さくらば節子市政報告・意見交換ミニ集会のお知らせ

日時	場所
7月7日(土)14:00~16:00	藤塚公民館
7月8日(日)18:30~20:30	春日謙信交流館
7月9日(月)18:30~20:30	子安子供の家
7月下旬	昭和町・寺町付近
7月下旬	牧区

誰でも市行政に関心のある方、ご意見のある方は、お気軽にご参加ください。対話しやすい気軽な形式の集会にいたします。

また今後も継続的にミニ集会是持っていますので、7月から8月にかけて、どこの地域でやってほしいなどのご要望がありましたら、ぜひお伝えください。

4. 無会派の部屋

今回の選挙で新人議員が4名議会入りしました。私と浦川原区出身の石田議員は悩んだ末、今回はどの会派にも属さないで勉強しようということになりました。「先輩議員から教えを受けたほうが良い」とのアドバイスもあったものの、右も左もわからない状態で会派を選んでみようもなく、少し生意気だと他議員から説教をお受けする覚悟でした。

ところがふたを開けてみたら、なんと議長経験もあるベテランの石平議員、永島議員、トップ当選の中川議員…と一癖二癖ある方ばかりが同じ無所属と言う道を選択されまして、いろいろと親切に教えていただくことができました。最近になって最大会派から抜けられた大先輩、内山議員が無所属の部屋に越してこられ、現在無所属の部屋は熱気と活気にあふれております。

多分にスポーツの石田議員の天然ポジティブ(前向き)な性格が影響しているのですが、無会派の部屋は何となくほんわかとあったかい雰囲気、毎日みんなに会えるのが楽しいです。議会は男性社会で意地悪な人もいて…と、覚悟して入った私でしたが、こんなに人に恵まれて楽しく働かせていただけたらとは幸せ者でございます。これから一生懸命頑張ります。

さくらば節子 市政報告 平成24年第1号

発行日：平成24年6月25日
発行：さくらば節子後援会事務所
住所：〒943-0648
上越市牧区小川1590番地
電話・FAX：025-546-7835
電子メール：
office@sakuraba-setsuko.jp

公式サイトもご覧ください。
<http://さくらば節子.jp>

女性の声を
市政に

随想

草むしりの手をふと休めると学校帰りの子供たちの声が耳に入る。「ねえねえ、夏休みは何するの？」

私の子供のころは夏休みの楽しみと言ったら、できたばかりの村営プールで泳ぐことくらいしかなかったなあ。お昼を食べるとプールまで20分の坂道を、大好きだった友達と転がるように走っていった。帰り道はお店屋さんで買ったカチンコチンのアイスキャンディーをかじりながら、友達と将来の夢を語りあった。

そんな何でもない毎日の繰り返しだったのに、あのころの私たちは最高に幸せだった。夢があった。「いつかこの広い世界で、できかくなってやる！」幸せが無限大にひろがって自分たちを待っていてくれるように感

じていた。

遊び場は常に家の外、けんかもしたし絶対いっしょに遊ばないやつもいたけれど…いつもたくさん友達と一緒に何でもないことで笑っていたような記憶がある。



あの笑い声をもう一度聞きたい。日本人の未来って、やっぱりあの子供たちの笑い声にあるんじゃないだろうか。

大人になって結婚し、親になっても、自分の子供たちの目を通してもう一度青春を生きることができる。子供たちの笑い声は私たちに、忘れた夢や他愛ない日々の生活に潜む喜びを思い出させてくれる。

日本人よ、若い人たちよ、どうぞ家族を持てるチャンスをつかんでほしい。そしてもう一度街にあの笑い声をよみがえらせてほしい。